

4 - 1 中部地方の上下変動 (2)

Vertical Movements in Chubu District (2)

国土地理院 測地部 地殻活動調査室
Geodetic Division and Crustal
Activity Research Office,
Geographical Survey Institute

中部地方において、国土地理院が1972年に実施した一等水準測量のうち、本稿では、高山市 - 下諏訪町、下諏訪町 - 高崎市、下諏訪町 - 甲府市、甲府市 - 清水市、掛川市 - 下諏訪町間の各路線における上下変動について報告する。(図中 白丸は道路基準点を示す)

各期間における高山市 - 下諏訪町間の上下変動を第1図に示す。

各期間の変動につき、この路線では、高山市から下諏訪町にむかってやや隆起の傾向が見られる。1950～1966年では若干この傾向が逆転しているようにも見られるが、最近6年間の1966～1972年では、ふたたび上昇傾向を示し、塩尻市周辺に、わずかながら隆起が見られる。1942～1950年の変動は、下段の地形断面図と極めて対応がよい。

下諏訪町 - 高崎市間の上下変動を第2図に示す。1925～1965年では、特別の変動は見られないが、最近の7年間1965～1972年では、下諏訪町から高崎市にむかって沈下の傾向が見られる。

下諏訪町 - 甲府市間の上下変動を第3図に示す。1889～1924年に見られる甲府市に向っての沈下現象は、1923年関東大地震 ($M = 7.9$) の影響によるものであろう。1926～1950年にみられる甲府市の沈下は、温泉等による地下水の利用の増加が、その要因と思われる。最近1965～1972年では、甲府市はやや沈下の傾向にある。第2図にも見られるように、道路基準点の変動は、かなりのバラツキがあり、地殻変動の資料としては、適切ではない。

甲府市 - 清水市間の上下変動を第4図に示す。1884～1895年では、特別の変動は見られないが、1895～1925年では、清水市に向っての激しい落ち込みを見せている。1931～1935年でも非常に大きな沈下の傾向を示している。これらの沈下の原因については、はっきりしないが、1935～1951年では、この傾斜が逆転している。これは、1944年12月7日の東南海地震 ($M = 8.0$) の影響を反映しているものと思われる。その後1951年以降は、甲府市から清水市に向って、再び沈下の傾向にある。

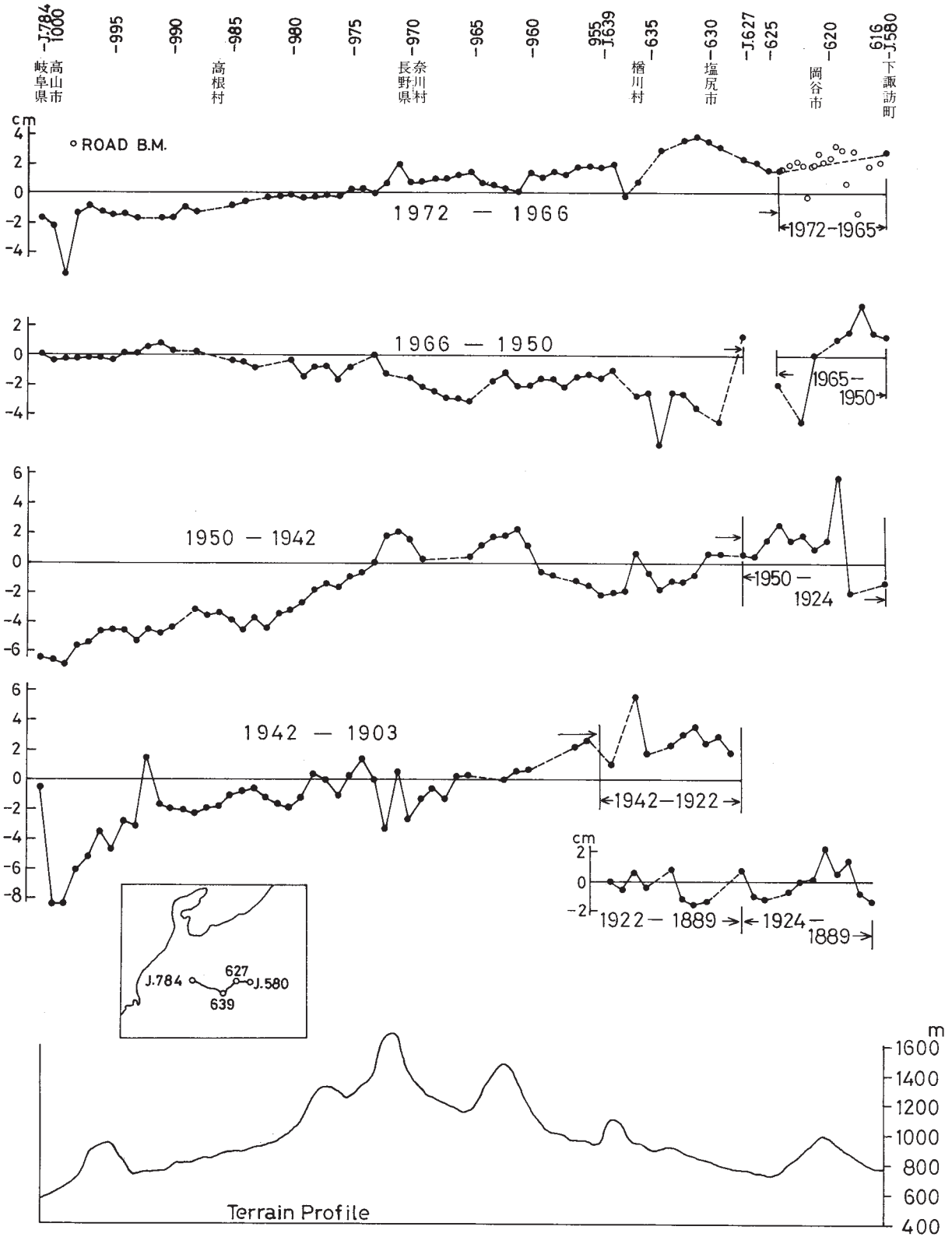
掛川市 - 下諏訪町間の上下変動を第5図に示す。この路線は、赤石山系と木曾山系の間でやや赤石山系よりを北上し、地質学的にも、山間部に隆起地形の存在するところである。し

かし、1933～1967年では、東南海地震の影響によって、掛川市の隆起が、あらわれている。最近1967～1972年では、掛川市から下諏訪町にむかって、やや隆起という一般的傾向を示している。

参考文献

- 1) 国土地理院地殻活動調査室，中部地方の上下変動(1)，連絡会会報，9，74 - 78，1973
- 2) 檀原 毅，日本における過去60年間の上下変動 IV中部地方，測地学会誌，13，66 - 74，1968

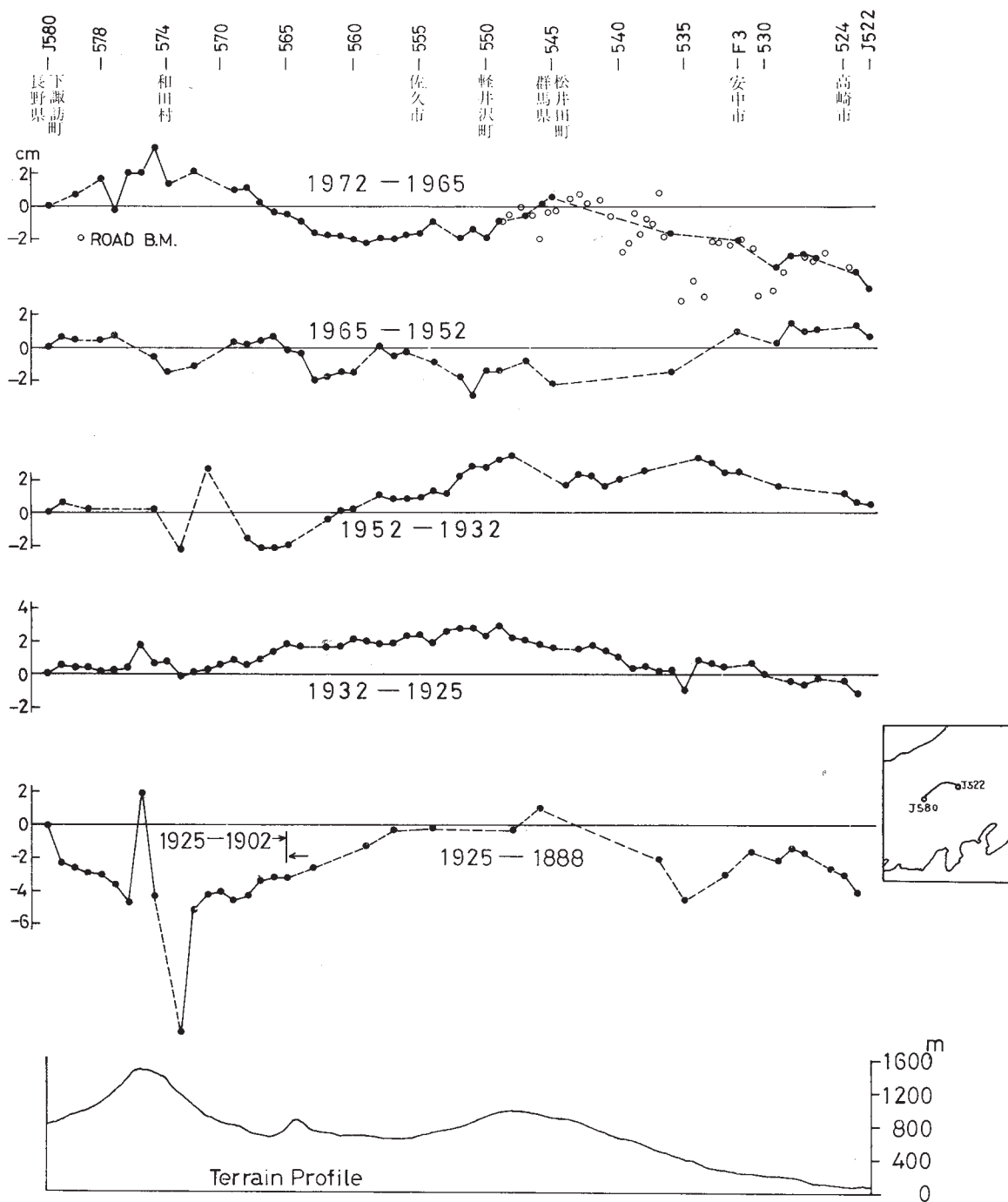
自 高山市 至 下諏訪町



第 1 図 高山市 - 下諏訪町間の上下変動

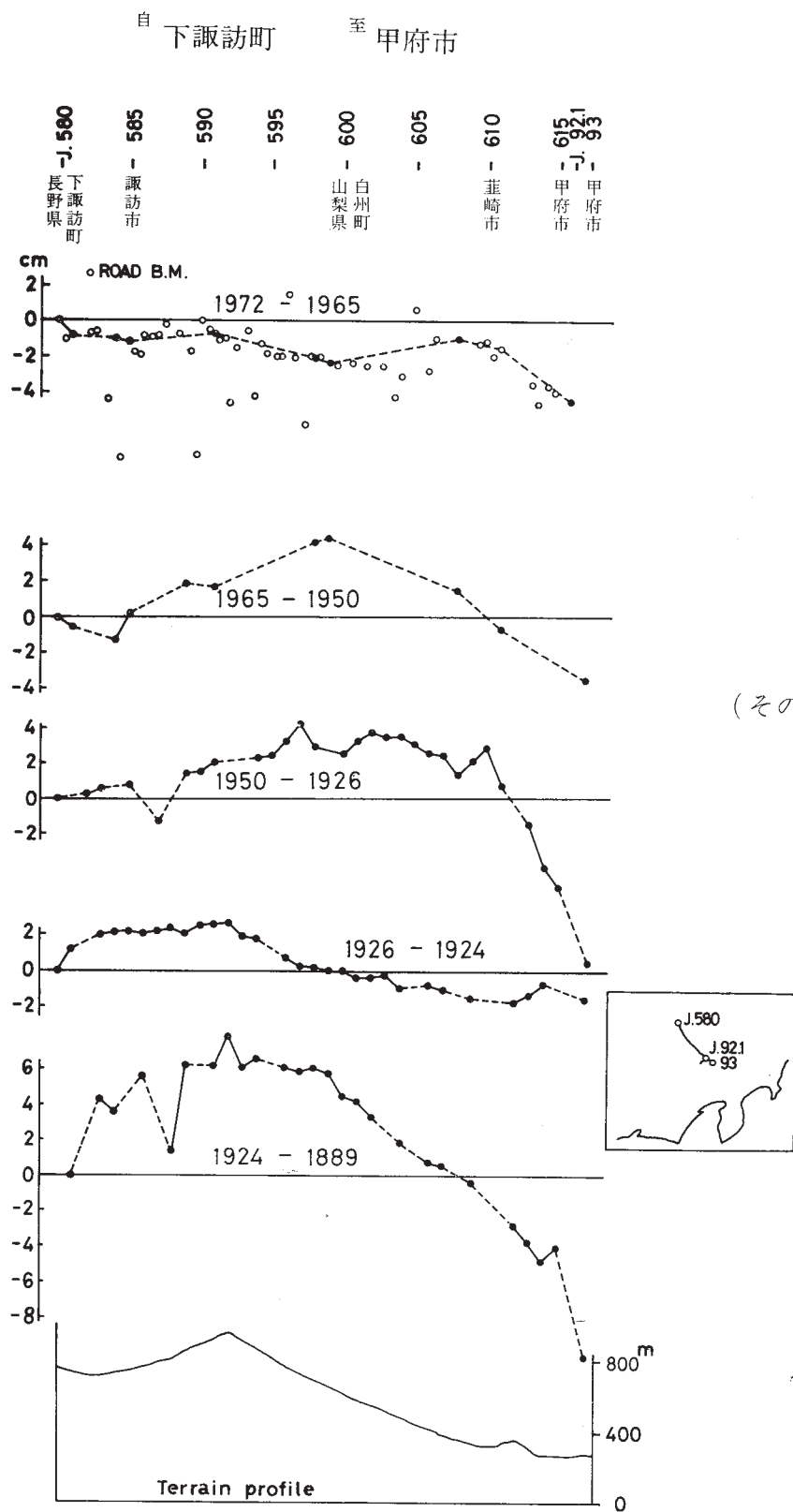
Fig. 1 Vertical movements between Takayama and Shimo-suwa cities

自 下諏訪町 至 高崎市



第2図 下諏訪町-高崎市間の上下変動

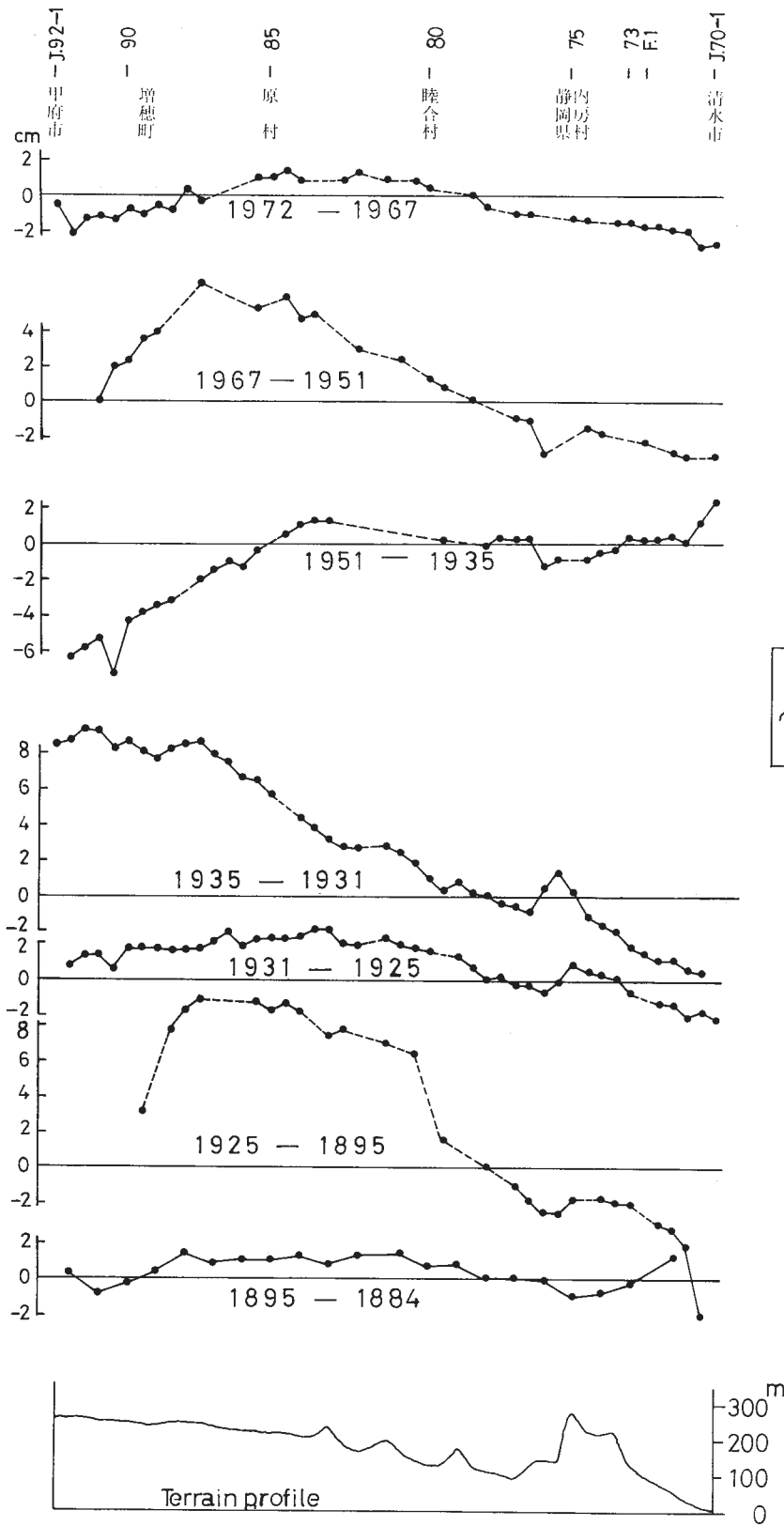
Fig. 2 Vertical movements between Shimo-suwa and Takasaki cities



第3図 下諏訪町 - 甲府市間の上下変動

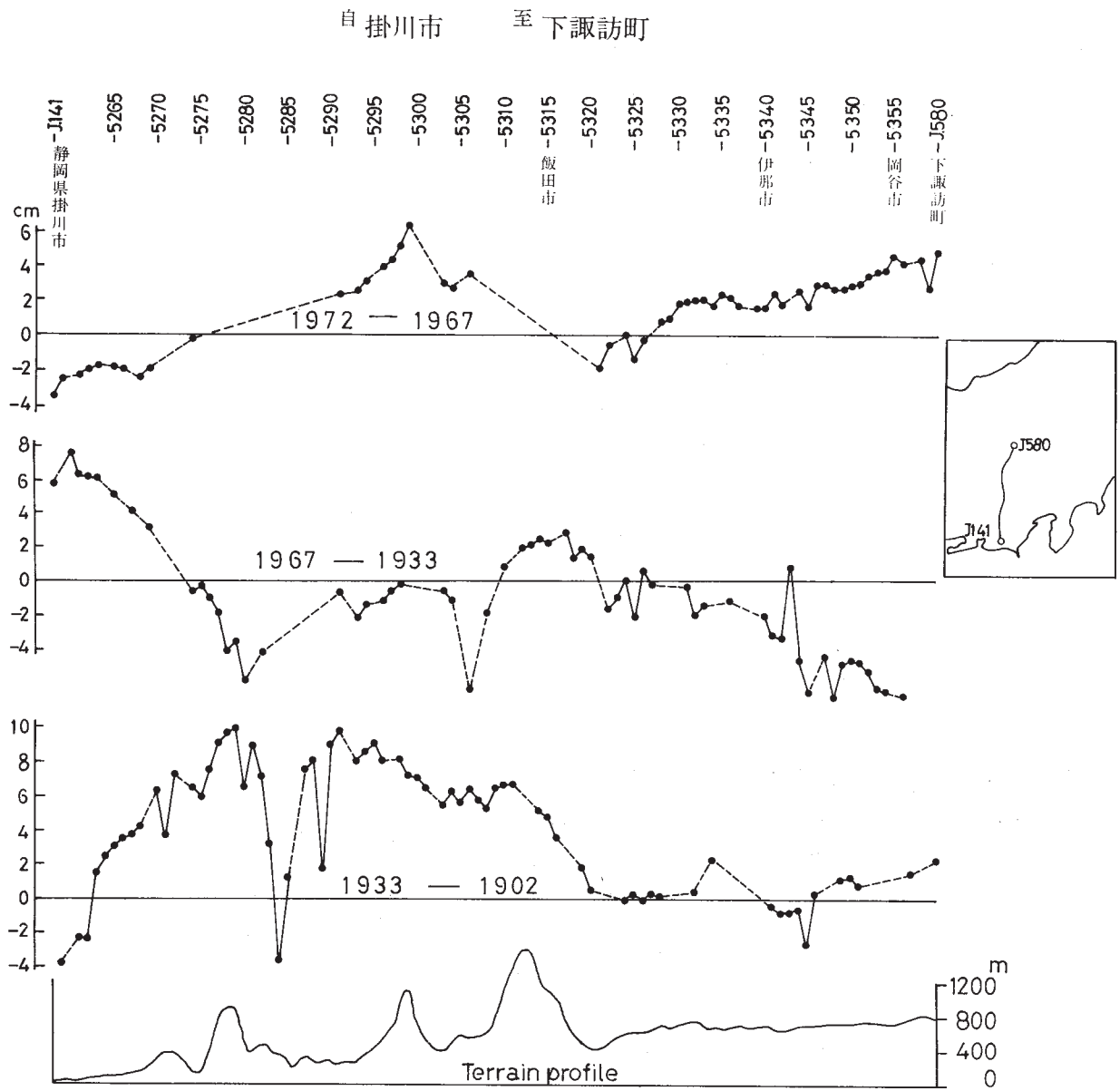
Fig. 3 Vertical movements between Shimo-suwa and Kofu cities

自 甲府市 至 清水市



第 4 図 甲府市 - 清水市間の上下変動

Fig. 4 Vertical movements between Kofu and Shimizu cities



第5図 掛川市 - 下諏訪町間の上下変動

Fig. 5 Vertical movements between Kakegawa and Shimo-suwa cities